

# 営農情報

第5号 平成26年7月16日発行

(大豆営農情報 8月号)

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

7月号の大豆営農情報において播種は7月10日～15日が適期としていましたが、7月上旬の大雨や、台風の影響で播種の開始は昨年より遅れています。今後は天気を見て早期に播種するようお願いします。その後は、以下のような点に留意して栽培管理を行いましょ。

## 1 中耕・培土

- (1) 中耕・培土は土の通気性を良くし、根の発達を促すことで、根粒菌数を増やし、地上部の発育と倒伏防止に有効です。また、雑草防除にも役立ちます。
- (2) 本葉2～5葉期（播種後15～25日頃）に1～2回、株元に土が十分寄るようにていねいに行います。

## 2 ハスモンヨトウ防除

白変葉が見え始める、幼虫が若～中齢（幼虫の体長が1～2cm）の頃が防除適期です。時期を逸すると効果が劣ることがあるので、適期防除を心がけましょ。防除時期については、今後の防除情報に十分注意して下さい。

時期	薬剤名	希釈倍数	使用回数	備考
8月下旬	プレバソンフロアブル5	4000倍	2回以内	速効性、残効長い

## 3 除草剤

中耕・培土による雑草対策が基本ですが、イネ科雑草が多い場合、以下の除草剤が使えます。

薬剤名	10aあたり使用量	備考
ポルト フロアブル	水1000lに薬剤200～300mlを混ぜる	イネ科雑草のみに効果あり。 広葉雑草には効果が無いので注意する。
大豆バサグラン液剤	水1000lに薬剤100～150mlを混ぜる	イネ科を除く一年生雑草に効果あり大豆の2葉期～開花前（収穫45日前まで）
	水1000lに薬剤300～500mlを混ぜる	イネ科を除く一年生雑草に効果あり 大豆の生育期（収穫45日前まで） ※畦間散布（大豆にかからないように散布する）

## 4 水管理

梅雨明け後、晴天で高温の日が多いと土壌が過乾燥となり、大豆の根の伸長抑制と根粒菌の活性低下を招きます。その際は、暗渠を施工しており乾きやすいほ場では、暗渠の栓を締めて下さい。

また、開花期に土が乾燥する場合は、花が落ち、実付きが悪くなります。一溝ずつ水を入れるなど、かん水のやり方を工夫ましょ。

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底ましょ！**